

2016年07月05日 13面

文字サイズ 小 中 大 [ブックマーク](#) [印刷](#) 

大林道路、岡山県立笠岡工高／実践型施工体験学習を実施／新型低炭素舗装を試験施工



試験施工で作業を体験する生徒たち

大林道路は、6月21日から28日にかけて、岡山県立笠岡工業高校で産学連携による実践型施工体験学習を行った。同校敷地に新型低炭素舗装を試験施工。環境土木科3年生39人が、材料の計量・運搬、混合、供試体製作、敷きならし・転圧、作業書作成・写真撮影までを実際に体験した。

今回の産学連携による実践型施工体験学習は、高校にとっては施工体験を通して、インターンシップ同様の効果とともに環境に配慮した最新の舗装技術の習得が期待できる。企業にとっては早期のキャリア教育による担い手不足解消に向けた効果とともに、二酸化炭素（CO₂）削減効果が期待される新型低炭素舗装のPR、普及も期待できる。

今回施工した新型低炭素舗装は、コンクリート再生骨材と高炉スラグ水砕砂を使用し、セメント量を抑えた再生材料利用率の高い舗装。供用中には中性化により大気中のCO₂を固定する特徴があり、環境面にも配慮している。

体験学習では、大林道路の光谷修平エンジニアリング部長、杉本浩一技術研究所西日本試験室長、中国支店の井手義勝工事部エンジニアリング課長が講師として参加。中国地方整備局岡山国道事務所の谷口雄一郎計画課長も見学を訪れ、「建設業界は担い手不足が課題となっているが、最近では情報化施工の発達や女性でも働きやすい環境を整えるなど、労働環境も変化している。地図に残るような大きなものをつくることのできるのも建設業。この体験を大事にし、ステップアップしてください」と今後に期待を寄せた。

体験学習を終えた生徒は、「就職活動のまっただ中で、どこに就職するか考えている時、こうした自分たちが体験できるような貴重な時間を設けていただき、本当に就職活動に役立った」「この体験を踏まえて、就職活動していきたい」などと感想を述べた。

[閉じる](#)

記事ID : 3201607051302

Copyright(C) 日刊建設工業新聞 記事の無断転用を禁じます